



2学期末までの貸し出し状況

2020年4月～12月の貸し出し冊数(学年別)

1年：608 2年：292 3年：217

総貸し出し冊数：1117(昨年度同時期 1191冊)

生徒一人あたり2.5冊の貸し出しがありました。

多読者(5位まで)

1位 116冊(1年生)
2位 100冊(1年生)
3位 70冊(1年生)
4位 59冊(1年生)
5位 52冊(3年生)

よく読まれた本

1位 九月文著『佐和山物語』
2位 有栖川有栖著『臨床犯罪学者 火村英生の推理』
// 豊島泰国著『安倍晴明読本』
3位 汐見夏衛著『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』
// 喜多みどり著『弁当屋さんのおもてなし』

本との出会いは一期一会

図書委員会による、ブックマーク作成と配布

陽谷祭のあと図書委員会がブックマーク(本のしおり)を作成し、12月に日出支援学校に100枚贈りました。表には前期後期の図書委員会活動目標を記し、裏にはマスコットキャラクター「ひよポン」のイラストを入れました。同じものを図書館で配布しています。



裏側は1、2年生が読んだ本の紹介文です

4月～9月に読んだ本の紹介②

10月2日提出分

図書館に展示しています。貸し出しできます。

・母の葉子と娘の草子が旅を続けている物語です。葉子と草子は一年ごとに新しい土地に引っ越していき、パパを待ち続けます。少し変わった表現が面白く、葉子や草子の考えている事に注目して読んでほしいです。(2年生)

江國香織著

『神様のポート』

新潮社



・野球をしている高校生の環境や、どのように練習に取り組んでいるかがわかり、今の自分と比較できます。これからどのように練習したらよいかがわかりました。先生のアドバイスも載っていて参考になります。(2年生)

高校野球ドットコム
編集部著『野球ノートに書いた甲子園』
ベストセラーズ



・羊と鋼の森。一体どんな森？実はピアノなんです。ピアノの調律師になった外村はさまざまな出会いを経て、ピアノの世界を知っていきます。音楽が大好きで今も続けているので、お気に入りの一冊となりました。(2年生)

宮下奈都著

『羊と鋼の森』

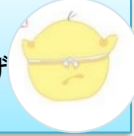
文藝春秋



・世界に迷惑をかけるために毎日クラゲ乞いをしている女子高校生と、平凡な男子高校生の、本をテーマにした作品です。文豪の名前や本のタイトルがたくさん出てくるので、この本を読むことで興味がわき、新しい本に出会えます。(2年生)

鯨井あめ著

『晴れ、時々くらげを呼ぶ』講談社



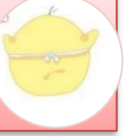
・部に入っても「部長」という役はしたことがありません。でも、この物語を読み進めていく中で、部長が部や部員のことを考えていることを知り、「尊敬」の言葉しか出てきませんでした。(1年生)

吉野万理子著『部長会議はじまります』
朝日学生新聞社



・科学について知りたい人に向けて、わかりやすく説明してくれる本です。重力や錯覚について、ちょっと変わった例で説明していて、とても面白い本だと思います。(1年生)

さくら剛著『感じる科学』幻冬舎



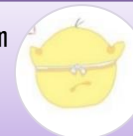
・「不安」がうまく書かれた作品だと思いました。親子の二つの視点で動き出すラストシーンは目が離せず、個人的にすごくすすめたいです。著者の他の作品の登場人物も出てくるので、知っている人は期待して読んでください。(1年生)

伊坂幸太郎著『AX』
KADOKAWA



・推理作家と、死者の言葉を伝える霊媒師が、力を合わせて事件を解決していく物語です。最後まで目が離せない展開です。(1年生)
・※2020年本屋大賞ノミネート作品

相沢沙呼著『medium 霊媒探偵城塚翡翠』
講談社



・キャラクターたちの個性が十分に描かれているのが、連載漫画と違うところです。原作とは違う物語があり、とてもおもしろい内容です。(1年生)

矢島綾著『鬼滅の刃 しあわせの花』
集英社



<図書委員会 後期の活動目標>

本と出会い、新たな道を